

19m03教育方法論m 解答例

学力の登場と学力論争

教育方法論 m 第 3 回 テーマ「学力の登場と学力論争」

(1) 「新しい時代の教育方法」から

全体の要点●

学力という言葉が本格的に使われ始めたのは、基礎学力論争からである。学力論争は、学力という言葉に本格的な検討を加えることでその後の学力研究の方向性や質を規定していく。

- 1) 学力論争の発端は、マスコミを通じて活発化する学力低下への、新中間層の保護者からの不安や不満であった。
- 2) 学力における基礎について、3Rs としての基礎学力、教科学習にとって基礎となる基礎学力、国民的教養の基礎として獲得してほしい教育内容としての基礎学力、学力構造における基礎部分としての基礎学力がある。
- 3) 学力モデルとは、教師が授業実践を行うに当たって、その意識の程度には差異があるが想定されている望ましい学力の姿であり、顕在的・潜在的に授業実践の質を規定している構成概念である。
- 4) 日本における代表的な学力モデルは、様々な物がある。それらのモデルに共通する論点は、分かる力と生きる力の関係構造をいかに把握するのかということであった。

(2) ネット資料「教育目標・評価学会」から

全体の要点●

学力低下という言葉は、過去との比較をもとに述べられる物である一方、現在求められている学力との比較によって検討しなければならないところに学力論争の困難さが存在するということが浮き彫りになった。

- 1) 学力という言葉は様々な意味を持って使われており、学力という言葉を使いつつそれぞれの主張が誰に対して何を求めた物であるのかが明らかになれば、教育改善の手がかりを得ることが可能である。
- 2) 学力論争とゆとりはどちらにも必ずしも矛盾しない親和性があつて、両者の対立が本質的な物かどうかは疑わしいとされた。
- 3) 現在の学力論争には人格論や指導論がかけっており、より具体的な授業づくりの課題として、日本型高学力状況を克服することと、苦役的学習観を克服することがある。

(3) ネット資料「臥竜塾」から

全体の要点●

新教育運動とは、それまでの知識偏重の教育に対し、子ども一人一人の個性を尊重する教育方針にシフトした教育改革のことである。

- 1) 知識注入主義、軍隊式訓練といった教育を旧教育、子どもの自主性や関心を重視する教育を新教育という。
- 2) ドイツでは、フレーベルが児童の内発的自発活動を重視し恩物を作成した。
- 3) アメリカでは、デューイなどが児童中心主義的な学習理論から問題解決学習という方法を提唱した。

(4) 自分の意見

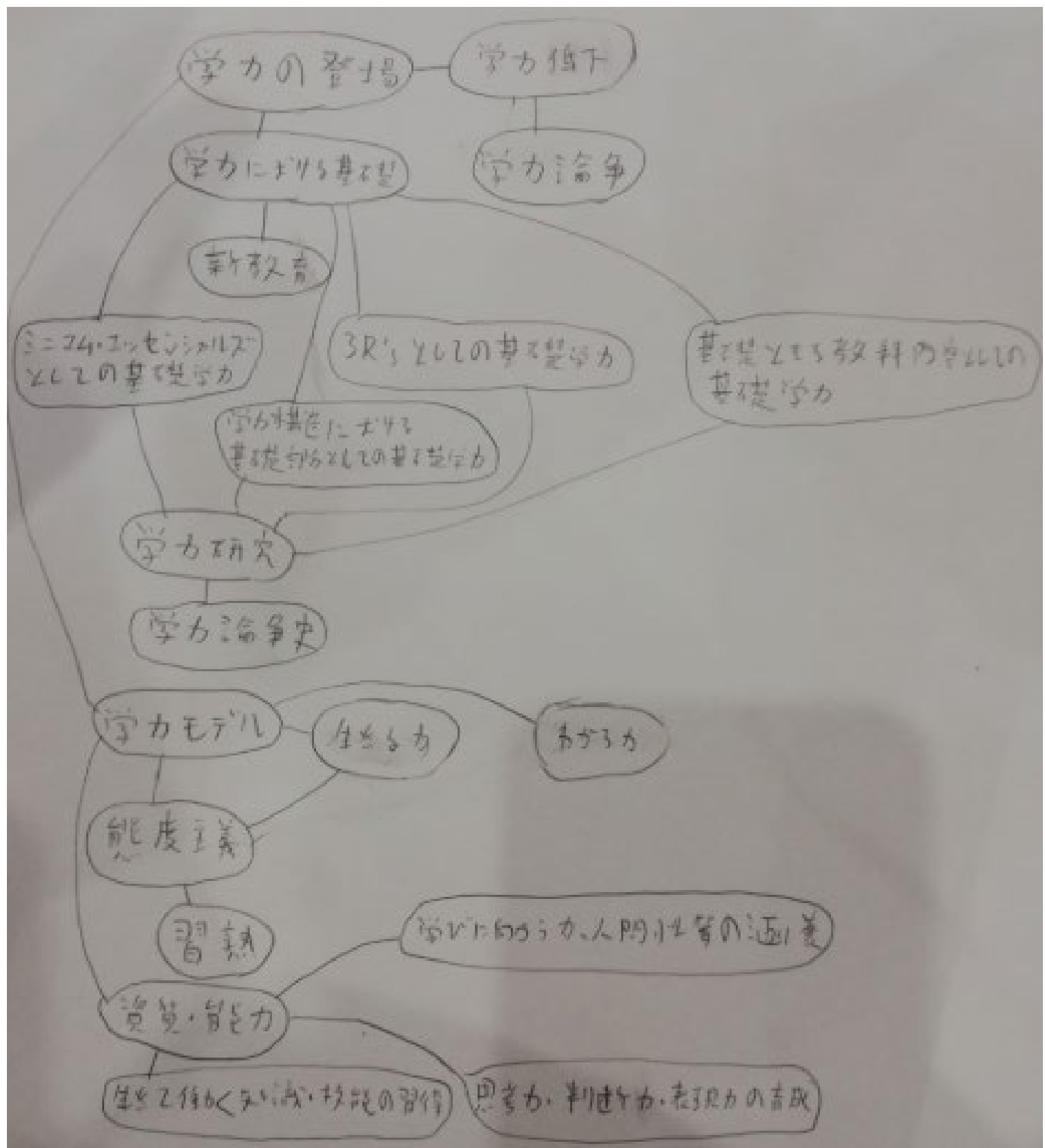
全体の要点●

学力という言葉が登場したことで、学力に対する論争が起こり、教育活動が活発になった。

- 1) 基礎学力として読み、書き、算を強調する考え方は古く、現在では生活の理解力と生活態度が重要視されており、それらを伸ばす教育を施すべきである。
- 2) 新教育として現在、大学で行われている PBL のような学習を高校から取り入れても良いと思う。
- 3) 学力論争は、教育が存在する限り起きると思うので常日頃から教育に対して何が出来るかを考えるべきだ。

(5) 出典(文献名、url 等)

- (1) 新しい時代の教育方法 p.74～p.80
- (2) http://jsseoe.net/annual13_02.html
- (3) www.caguya.co.jp/blog_hoiku/archives/2013/10/旧教育から新教育へ.html



問題解決学習論争

教育方法論 m 第 3 回

テーマ「問題解決学習論争」

(1) 「新しい時代の教育方法」から

全体の要点●問題解決を行う際に必要なのは知識観か系統性か

ポイント

- 1) 問題解決に直面したときに必要な知識を学ぶのか、系統性で学んだ知識が必要に応じて選択され問題解決に使用されるのか。
- 2) 大人ですら解決できない問題解決学習に対し、子供がリアリティをもって解決できるのか。
- 3) 問題解決を対象化し、子供たち自身で解決することは可能なのか。
- 4) 現在は系統学習が行われているが、近年提唱されている「アクティブ・ラーニング」は問題解決学習である。

(2) 「新しい時代の教育方法」から

全体の要点●それぞれに欠点がある。

ポイント

- 1) 系統性の知識は実際の生活とつながりにくい。
- 2) 系統性の知識は学ぶ意欲が向上しにくい。
- 3) 問題解決型学習の際に必要な知識を学ぶと、とぎれとぎれの知識になる可能性がある。
- 4) 生活外の知識を学ぶ機会が失われる。

(3) その他のネット資料から長所・短所

全体の要点●問題解決型学習は一時期衰退したが、近年は増加している。

ポイント

- 1) 戦後直後問題解決型学習が行われたが、学力が低下したと批判され系統型学習に移行した。
- 2) 経験主義型カリキュラムは直面する問題に対しての解決策を模索するための学習である。
- 3) 系統主義カリキュラムは学問を体系的に学ぶ学習である。
- 4) 近年は応用力の強化が問題となり、経験型カリキュラムを増加させようという試みがなされている。

(4) 自分の意見

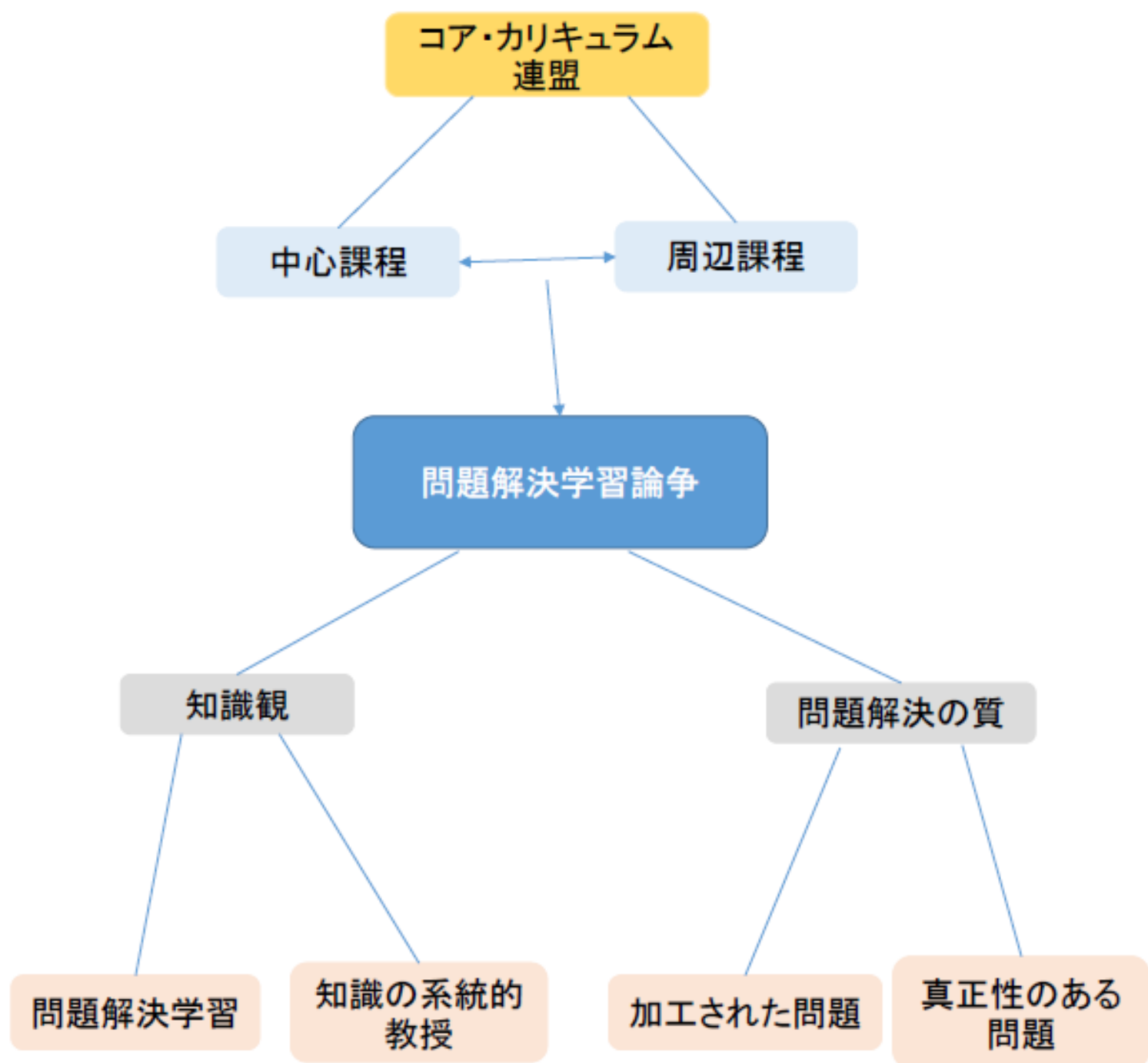
全体の要点●双方の長所をとりいれ、短所を克服する学習を行えばいいのではないかな。

ポイント

- 1) 知識・教養を学ぶ、国語の「古文」のような授業
- 2) 生きている社会を学び、今ある問題の解決策を模索する「現代社会」や「理科」「総合」の融合のような問題解決型の学習。
- 3) 数式や理論を学ぶ「数学」「理科」など。
- 4) 時代に合わせて変化させる「情報」や「技術・家庭」など。

(5) 出典(文献名、url 等)

- (1) 新しい時代の教育法
- (2) 新しい時代の教育法
- (3) 園田学園女子大学論文集 第 44 号(2010.1) <https://www.sonoda-u.ac.jp/tosyo/ronbunshu/>園田学園女子大学論文集 44/159-172.PDF



楽しい授業論争

教育方法論 m 第2回

テーマ「教育改革の試み」

(1) 「新しい時代の教育方法」から

全体の要点●

- ポイント 1) 天皇制を中心とした臣民義教育から、「新しい」「自由」を求める大正新教育へ
- 2) 私立学校が導入した、子供の自立を保証するための「学習方」
- 3) 子供一人ひとり応じた教育を行う「分団式動的教育法」
- 4) 戦後の新教育→アメリカの教育方法を参考にしたカリキュラムや、単元学習

(2) 「17 中学校学習指導要領解説」「18 高等学校学習指導要領解説」等から

全体の要点●

- ポイント 1) よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創る”という目標を学校と社会が共有し、連携・協働しながら、新しい時代に求められる資質・能力を子供たちに育む「社会に開かれた教育課程」の実現
- 2) 学校教育には、子供たちが様々な変化に積極的に向き合い、他者と協働して課題を解決していくことや、様々な情報を見極め、知識の概念的な理解を実現し、情報を再構成するなどして新たな価値につなげていくこと、複雑な状況変化の中で目的を再構築することができるようになることが求められている。
- 3) 学校内における教師の世代間のバランスが変化し、教育に関わる様々な経験や知見をどのように継承していくかが課題となり、子供たちを取り巻く環境の変化により学校が抱える課題も複雑化・困難化する中で、これまでどおり学校の工夫だけにその実現を委ねることは困難になってきている。

(3) その他のネット資料から長所・短所

全体の要点●

- ポイント 1) 主体的に問題を解決していく力の育成
- 2) 社会の急速な変化に対応する英語力の育成
- 3) 未来を生きる子どもたちに「どのような力(資質・能力)を身につけるのか」「何ができるようになるのか」まで踏み込んで求める教育へ

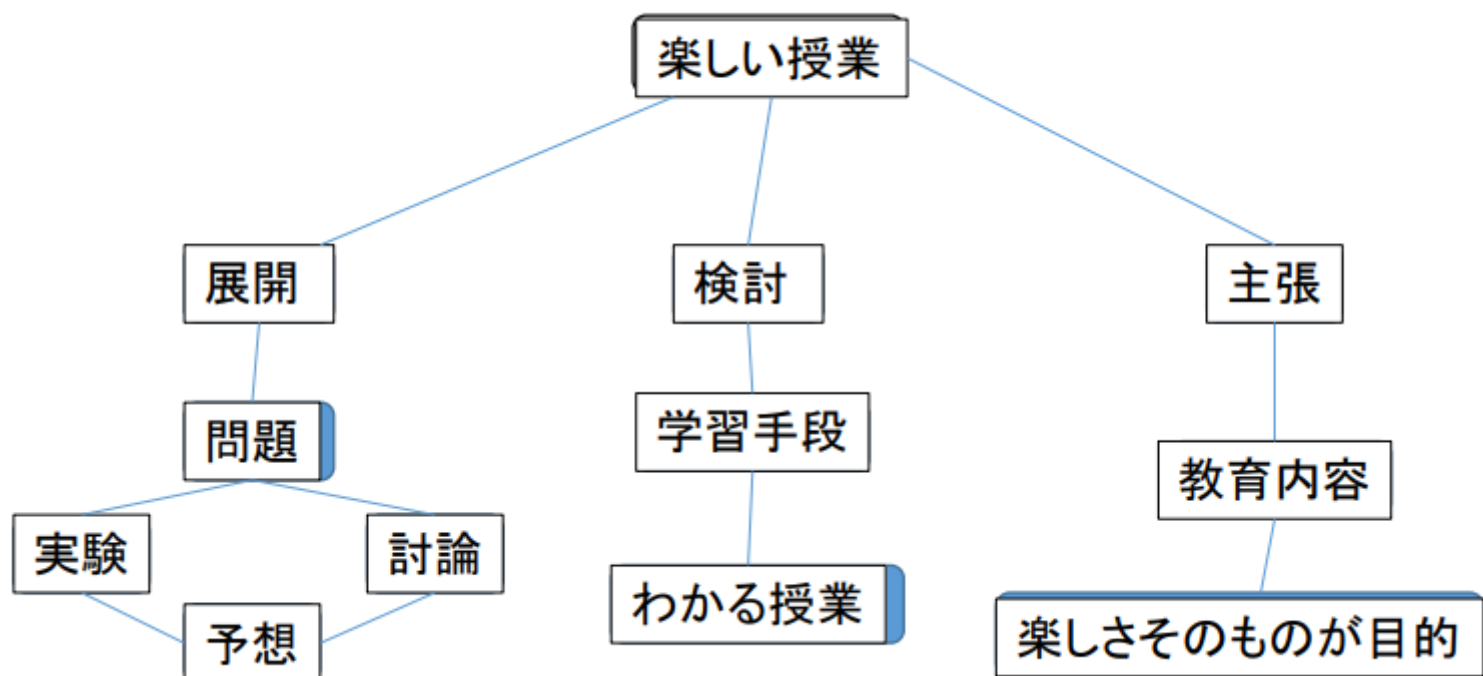
(4) 自分の意見

全体の要点●

- ポイント 1) 政権が教育の内容を左右することが多い
- 2) 教育改革は時代のニーズ合わせて行われている。
- 3) これからの日本や世界で何が求められているのかに注目されている
- 4) 時代を追うごとに視野を広げている

(5) 出典(文献名、url 等)

- (1) 文部科学省(2017). 「中学校学習指導要領解説」. pp.1-6.
- (2) 文部科学省(2018). 「高等学校学習指導要領解説」. pp.1-6.
- (3) <https://www.benesse.co.jp/kyouikukaikaku/>



ICT活用例

教育方法論 第3回 テーマ「ICT 活用例(情報、プログラミング)」

(1) ネット資料より(総合的)

ICT を授業等に導入することで、授業が円滑に進めることができたり、生徒の復習にも役立てたりすることが一般的には知られているが、その裏にはデメリットも存在しており、どのようにしてそのデメリットを解消しながら活用していくかが問題となる。

ポイント)

- ・教員の授業編成の効率化だけでなく、生徒の興味関心を引き付けるための最強のツールになる
- ・情報機器の活用をさせることで調べる力やリテラシーなどの活用能力をつけられる
- ・自分で考える力や書く力の低下に繋がるのではないかの懸念

(2) ネット資料より(肯定的)

Python によるデータ処理によって Excel で処理することができなかったところができるようになり、PBL 活用する際に身近な課題の改善策を提案し考えていくことに活用することができるとしており、情報だけでなく、数学にも活用することが可能なのではないかと考える。

ポイント)

- ・「知る」「理解する」「活用する」の3ステップを設けて考えを進めていく
- ・生徒に新しいものを体験させて今後出てくるソフトウェアに対応できるための意欲と態度を育成
- ・データの表現の影響と表現の特性を捉え、適切に活用できるように目標設定をしたこと

(3) ネット資料(否定的)

プログラムをするには論理的思考力が必要となるが、教員用サポートのパッケージ化された教材では生徒に思考力を養わせることができず、また想像力が必要となるので言語だけを覚えさせても将来の活用した結果が残念な結果となってしまう可能性がある

ポイント)

- ・教員のために「ICT支援員」制度を設けているが論理的思考力についての懸念が残る
- ・コーディングの知識をさせるのならまず「スクラッチ」のようなものをさせるべき
- ・プログラムが書けるだけなら価値がない

(4) 自分の意見

今日では、情報の必修化によって様々な企業が教育支援サポート機器を作成しているが、それは教員の負担を減らすためみたいなものであるが、うまく活用しないと本当に生徒のためにならず、また管理ができずに無駄になってしまう可能性があるので、考えて授業に導入させていくべきである。

ポイント)

- ・装置の配置やアップデート等に情報を扱える教員だけでは対応できないのは
- ・様々な企業が教育支援機器で教育をサポートしているが、利用料金がかかる
- ・論理的思考力をはじめにつけさせてからプログラミングに入っていくほうが良いのでは

(5) 出典(参考文献、URL 等)

- ・教育 ICT とは | e ラーニングのデジタル・ナレッジ

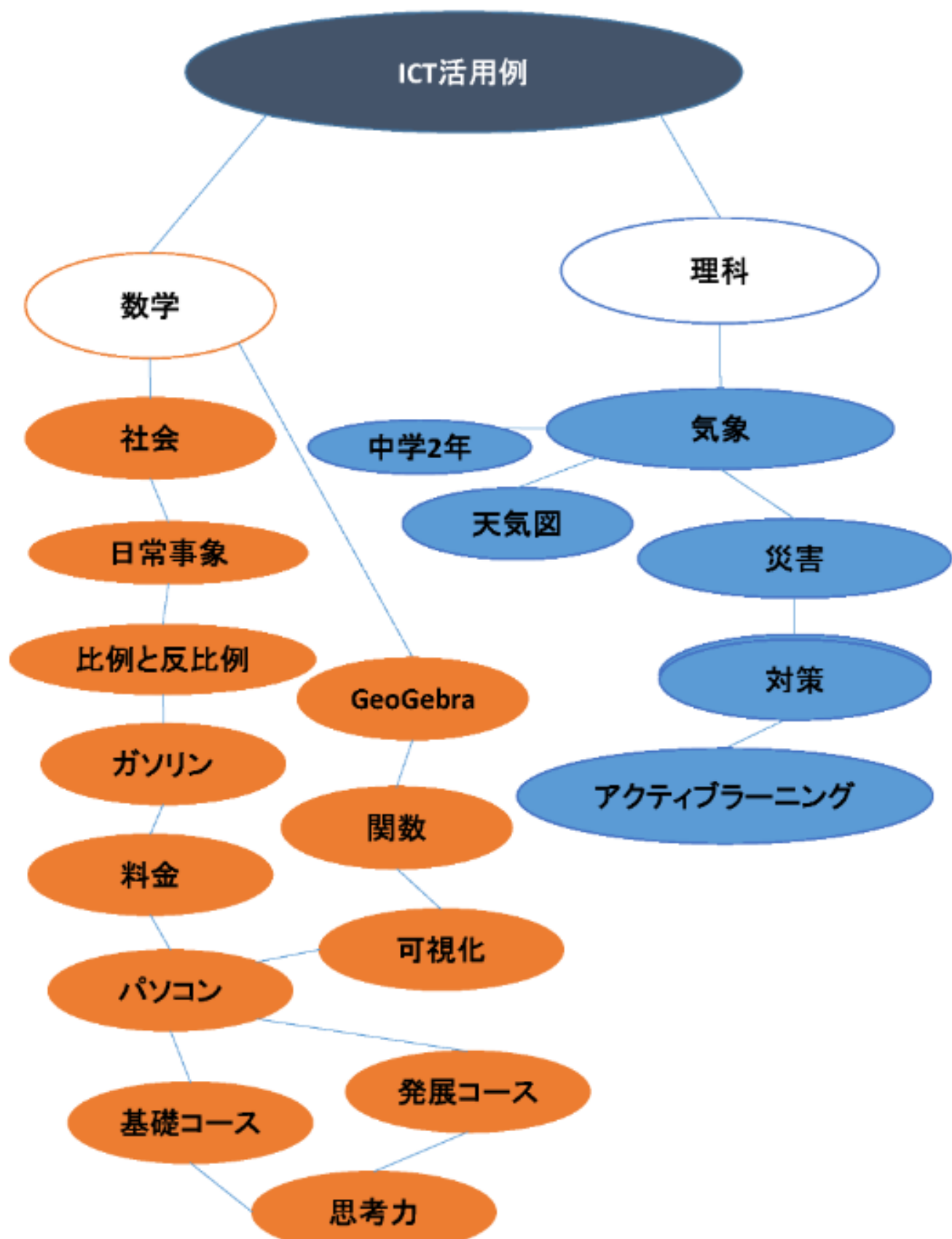
(URL : <https://www.digital-knowledge.co.jp/about/esi/icte/> 2019/10/06 観覧)

- ・「Python」で統計学習 プログラミングでデータ処理<二松学舎大学附属柏中学校・高等学校・阿部百合教諭>(URL : https://www.kknews.co.jp/post_ict/20190909_6c 2019/10/06 観覧)

- ・義務教育の「残念なプログラミング授業」、現役エンジニアが危惧

(URL : <https://diamond.jp/articles/-/198744> 2019/10/06 観覧)

ICT活用例



確認問題02

教育方法論 m

第 2 回

確認問題 02

(1) 江戸時代の庶民教育の機関であった寺子屋での主たる学習内容を3つ挙げよ。

- ・読むこと
- ・書くこと
- ・計算すること

(2) 次の空欄を埋めよ。

(明治期の)文部省は、(西洋)からの
応急的な(教育方法)の移入・普及をはか
るとともに、その背景にある(教授理論)
紹介を行った。その大半は(アメリカ)
の教授法書であり、(師範学校)の教科書と
して広く利用された。(スコット)がもた
らした「塞兒敦氏(庶物指数)」は
(ペスアロッチ)主義に基づく(実物教授)
の具体的な方法を示したものであり、当時の
(実証的)な教授法書であった。

(3) 森有礼が師範学校運営に掲げた三気質をあげ、
森がこれにより教師に求めたものを簡潔に説明
せよ。

・順良、信愛、威重

・天皇制)国家主義を支える「臣民」の育成に
全力を尽くす献身的没我

(4)「学制の教育理念」「ヘルバルト主義教授法」「大
正新教育運動」のうちの1つについて簡潔に述べ
よ。

ヘルバルト主義教授法は、道徳性の涵養と
いう5つの近代的理念(内的自由、完全性、好意、
権利、公正)の教育目的を、5段階教授法を
中心とした実践的な教授技術、子どもの認識
過程に対応して方法的单元という教材論と
統一的にとらえていた。しかし、日本では
道徳的涵養は五倫五常に近いもので教育勅語
の徳目として解釈され、5段階教授法は3段
階(予備教授、応用)に簡略化された。

大正新教育運動

大正期の学校教育で、教育勅語の発布及び教科書の
国定化を2本柱とする「臣民教育」の徹底が課題となっ
ていた明治期に対し、国際的な教育改革の潮流の影響を
受けて、「新しい」「自由な」教育を求めた運動

学制の教育理念

「学問は身を立てる財本」とする立身出世主義的教育観
すべての国民に平等に教育の機会を与えるという
教育における四民平等

日常生活に必要な基礎学力の修得から始めて近代科学を
中心とした学問を起こすという実利主義的学問観

**) 確認問題 02 を自己評価し、
気づいたこと、感じたことをのべよ

■ 5段階自己評価 (3)

■ 近代教育学は西洋やアメリカ等からの
教育法方の導入がメインであると思っていたが
日本でも思想的なものも影響して日本独自の
教育法方も確立されたんだと感じた。

